

平成28年度前期 授業改善アンケート 質問項目

【選択肢】

A そのとおりだと思う B どちらかといえば、そう思う C どちらかといえば、そう思わない D そう思わない

【設問】

		no.	設 問
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか
		3	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか
		4	あなたはシラバスに示された「到達目標」を達成しましたか
授 業	内 容	5	授業はシラバスに記載された内容で行われましたか
		6	あなたは授業内容を理解できましたか
	教 え 方 等	7	教員の説明は明快でしたか
		8	教員の話は良く聞き取れましたか
		9	授業の進め方は、内容等を理解する上で効果的でしたか
大 学 か ら の 質 問	環 境 ・ 設 備 等	10	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか
		11	参考書等が図書館に揃っていますか

1.概評

今回の授業改善報告書は、一般教養科目116コマ、回答者数9,213名を対象としている。新アンケートになって今回で3回目を数えるが、今回も全般的な傾向には大きな変化は見られない。大学全体との比較においては、全項目がA評価に関しても、A+B評価に関しても、若干ではあるが、総合の評価の方が全体のそれを下回っている。また、一般教養科目についての評価を時系列で（2015年度前・後期及び今回の2016年度前期）比較すると、no.3, no.7（A評価）, no.10を除いて、全ての項目が、前々回、前回は若干ではあるが下回っている。大学全体の平均との差の激しい項目については、no.2とno.3に関しては専門科目の取り組みと一般教養科目のその熱心さの差が、こうした数字として表れているものと思われる。no.11については、改善を是非図りたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察
1	0.9 (1)	0.0 (0)	4.3 (5)	18.1 (21)	27.6 (32)	29.3 (34)	11.2 (13)	5.2 (6)	3.4 (4)	0.0 (0)	[学生] 4つの項目のどれをとっても、全体との比較では低いが、A+Bの全体に占める割合は、1から4まで、それぞれ88.9、92.1、87.5、89.7%となっており、おおむね良好であると考えて差し支えない。但し、概評で示したように、授業での取り組み、授業外での学習については、困難ではあるが、打開策を考えねばならない。
	0.0 (0)	5.2 (6)	12.1 (14)	25.0 (29)	47.4 (55)	9.5 (11)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	2.6 (3)	15.5 (18)	21.6 (25)	21.6 (25)	11.2 (13)	12.9 (15)	5.2 (6)	6.9 (8)	2.6 (3)	
	1.7 (2)	7.8 (9)	8.6 (10)	15.5 (18)	22.4 (26)	33.6 (39)	9.5 (11)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.7 (2)	12.1 (14)	17.2 (20)	16.4 (19)	14.7 (17)	17.2 (20)	13.8 (16)	3.4 (4)	3.4 (4)	
	5.2 (6)	6.9 (8)	22.4 (26)	26.7 (31)	22.4 (26)	14.7 (17)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	3.4 (4)	12.9 (15)	18.1 (21)	31.9 (37)	12.9 (15)	14.7 (17)	1.7 (2)	2.6 (3)	1.7 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	1.7 (2)	3.4 (4)	7.8 (9)	16.4 (19)	40.5 (47)	23.3 (27)	5.2 (6)	0.9 (1)	0.9 (1)	
5	0.0 (0)	0.9 (1)	6.0 (7)	6.0 (7)	12.9 (15)	37.1 (43)	20.7 (24)	11.2 (13)	2.6 (3)	2.6 (3)	[授業[内容]] no.5、no.6の評価は、前回よりは下がったが、A評価がno.5: 56.3%、no.6: 51.0%、A+B評価はno.5: 5.9%、no.6: 91.1%と高い評価を得ていて、概ね問題ないと考える。
	3.4 (4)	0.9 (1)	14.7 (17)	27.6 (32)	35.3 (41)	12.1 (14)	4.3 (5)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	
6	0.9 (1)	6.9 (8)	6.0 (7)	17.2 (20)	20.7 (24)	17.2 (20)	9.5 (11)	10.3 (12)	7.8 (9)	3.4 (4)	
	3.4 (4)	9.5 (11)	9.5 (11)	17.2 (20)	32.8 (38)	20.7 (24)	6.9 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.9 (1)	4.3 (5)	5.2 (6)	8.6 (10)	17.2 (20)	13.8 (16)	19.0 (22)	12.1 (14)	10.3 (12)	8.6 (10)	[授業[教え方等]] no.7からno.9も、前回は少し下回るものの、いずれの項目もA+B評価は90%セントを上回っており、概ね良好である。
	7.8 (9)	12.9 (15)	16.4 (19)	26.7 (31)	21.6 (25)	12.9 (15)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	3.4 (4)	4.3 (5)	9.5 (11)	10.3 (12)	20.7 (24)	17.2 (20)	15.5 (18)	9.5 (11)	9.5 (11)	
	8.6 (10)	11.2 (13)	20.7 (24)	25.0 (29)	25.0 (29)	8.6 (10)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	5.2 (6)	5.2 (6)	11.2 (13)	16.4 (19)	22.4 (26)	12.9 (15)	11.2 (13)	8.6 (10)	6.9 (8)	
	6.9 (8)	11.2 (13)	12.1 (14)	24.1 (28)	31.0 (36)	12.9 (15)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (4)	8.6 (10)	14.7 (17)	19.0 (22)	29.3 (34)	15.5 (18)	6.0 (7)	3.4 (4)	[環境・設備等] 確かに全体との比較では、A評価はそれぞれ、9%、8.8% 下回ってが、A+B評価はいずれも90%を上回っており、低い数値とは言えない。無論、参考図書の充実に関しては、全体の数値に追い付けるよう、対策を講じていきたい。
	5.2 (6)	10.3 (12)	25.0 (29)	37.1 (43)	19.0 (22)	3.4 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	3.4 (4)	9.5 (11)	29.3 (34)	29.3 (34)	19.0 (22)	6.0 (7)	0.9 (1)	2.6 (3)	0.0 (0)	
	1.7 (2)	4.3 (5)	9.5 (11)	19.8 (23)	35.3 (41)	26.7 (31)	2.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

前回と同様の分析になるが、大学全体の評価と比べると2, 3項目の例外を除いて、どの項目の評価も全体を下回っている。専門科目と一般教養科目へのモチベーションの差や、1年次から専門科目を履修するカリキュラムの在り方から、この差はある程度説明が付くが、専門科目とは異なる教養科目の「面白さ」をアピールできる科目を着実に増やしていく努力を続けていきたい。

4.今後の方針

この項目も前回と同じになるが、一般教養の現状を教員間で共有し、議論を通して対策を練っていく。具体的には以下を基本方針とする。

- ①本学の特長である科目の多様さを活かしながら、バランスの良い科目編成を推し進める。
- ②分野・領域を結び、総合することを目指した「総合教養研究」は成功しているとは言えないが、もう少し経緯を見守りながら、更に可能性を探っていく。

1.概評

全ての項目について概ね高い評価である。今までの方針を維持しながら効果を高める方法を模索していきたいと思う。充実した授業内容やいい環境・設備の提供による学習意欲や授業理解度は密接することがわかる。外国語はレベルやそれぞれの語学の特徴を取り入れた授業内容を構成することでより良質な学習環境をめざす。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	1.0 (2)	3.3 (7)	12.4 (26)	19.0 (40)	19.0 (40)	18.1 (38)	13.3 (28)	8.1 (17)	2.9 (6)	2.9 (6)	[学生] 学生の評価項目No2とNo3を総合し、昨年前期と比べればA評価が高く、授業に積極的に出席し、課題など課外学習にも真面目に取り組んでいると考えられる。No2とNo3よりはNo1とNo4の評価は全体的にB評価の幅が広がっている。これはそれぞれのレベルに合わせた外国語の到達目標設定や授業内容の充実さに重要な要素であることを示している。
	2.9 (6)	5.7 (12)	14.3 (30)	19.0 (40)	28.6 (60)	22.4 (47)	6.7 (14)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.5 (1)	2.9 (6)	4.8 (10)	7.6 (16)	14.8 (31)	22.9 (48)	20.0 (42)	15.7 (33)	7.1 (15)	3.8 (8)	
	3.3 (7)	8.1 (17)	19.5 (41)	21.4 (45)	19.0 (40)	18.6 (39)	7.1 (15)	2.4 (5)	0.5 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	2.4 (5)	4.3 (9)	10.5 (22)	16.2 (34)	19.5 (41)	21.9 (46)	13.8 (29)	7.6 (16)	3.8 (8)	
	3.3 (7)	8.1 (17)	18.1 (38)	27.6 (58)	21.4 (45)	14.3 (30)	6.7 (14)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	8.1 (17)	15.2 (32)	22.4 (47)	16.7 (35)	17.1 (36)	9.5 (20)	5.2 (11)	2.9 (6)	1.4 (3)	1.4 (3)	
	1.4 (3)	1.4 (3)	3.8 (8)	11.4 (24)	13.3 (28)	27.6 (58)	22.9 (48)	15.7 (33)	1.9 (4)	0.5 (1)	
5	0.0 (0)	1.9 (4)	5.2 (11)	10.0 (21)	11.9 (25)	19.5 (41)	21.9 (46)	14.8 (31)	9.0 (19)	5.7 (12)	[授業[内容]] 前年度に比べてB評価のほうが広がっているが、全体的にもA評価よりB評価のほうがやや高い傾向である。外国語の授業は語学を覚えていく内容なので段階的に進めていくことになる。前回の授業内容との関連性が高いため授業内容を理解するためにも課題などを通して学生の授業前の復習に徹底する方策が考えられる。
	5.2 (11)	8.1 (17)	19.0 (40)	20.5 (43)	21.4 (45)	14.3 (30)	8.6 (18)	2.4 (5)	0.5 (1)	0.0 (0)	
6	0.5 (1)	3.8 (8)	10.0 (21)	15.2 (32)	13.8 (29)	17.6 (37)	13.8 (29)	12.9 (27)	9.0 (19)	3.3 (7)	
	3.8 (8)	10.5 (22)	16.7 (35)	15.7 (33)	21.0 (44)	20.0 (42)	9.5 (20)	1.4 (3)	1.4 (3)	0.0 (0)	
7	1.9 (4)	1.9 (4)	4.8 (10)	7.1 (15)	7.6 (16)	14.3 (30)	12.9 (27)	21.9 (46)	18.1 (38)	9.5 (20)	[授業[教え方等]] 全項目について高い評価である。前年度に比べて肯定評価が高く、A評価の数値も上がっていることから教員の説明は明快で話もよく聞き取れていると考えられる。その反面CとD評価についても前年度に比べると僅差ではあるが、0.3から0.5数値が上がっているの でクラスの中で理解力について幅が広がっていると考えられる。このデータからみると幅広い学生の理解度に対応するための適切な資料選びや提示も密接な関連性があると考えられる。
	9.0 (19)	20.5 (43)	24.3 (51)	17.1 (36)	14.8 (31)	10.0 (21)	1.9 (4)	1.4 (3)	0.0 (0)	1.0 (2)	
8	1.0 (2)	0.5 (1)	3.8 (8)	5.7 (12)	8.1 (17)	14.3 (30)	12.9 (27)	19.5 (41)	20.0 (42)	14.3 (30)	
	15.2 (32)	22.4 (47)	19.0 (40)	20.5 (43)	11.0 (23)	8.1 (17)	2.4 (5)	1.0 (2)	0.5 (1)	0.0 (0)	
9	1.0 (2)	2.9 (6)	4.8 (10)	7.6 (16)	11.9 (25)	13.8 (29)	17.6 (37)	18.6 (39)	15.2 (32)	6.7 (14)	
	7.6 (16)	19.0 (40)	22.4 (47)	19.0 (40)	14.3 (30)	11.9 (25)	5.2 (11)	0.0 (0)	0.5 (1)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.5 (1)	0.0 (0)	2.4 (5)	6.2 (13)	10.0 (21)	19.5 (41)	28.1 (59)	20.0 (42)	13.3 (28)	[環境・設備等] 全体的に学習環境への評価は前年度に比べて高く、年々改善されていると分析できる。参考図書や学習環境の充実さは学生の学習意欲を高める一因になるので幅広い図書を揃え、学習環境を整えるのは重要な役割である。
	16.2 (34)	23.8 (50)	27.6 (58)	19.0 (40)	8.1 (17)	3.3 (7)	1.4 (3)	0.0 (0)	0.5 (1)	0.0 (0)	
11	0.5 (1)	6.7 (14)	11.9 (25)	15.2 (32)	21.0 (44)	23.3 (49)	11.4 (24)	6.7 (14)	1.9 (4)	1.4 (3)	
	6.2 (13)	5.2 (11)	14.8 (31)	14.3 (30)	26.2 (55)	21.0 (44)	10.0 (21)	1.0 (2)	1.4 (3)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

外国語習得は発音・発声・語彙・文法・会話といった語学の基礎から始めねばならないが、語学学習に伴う地道な努力は他の様々な学習とも関連している。シラバスに基づき、授業内容を充実させるとともに授業の中で到達目標を明確に示し、学生の目指すべき学習目標をわかりやすくする。語学の基礎力を高めるのに力を入れ、色々な学習にも関連付けられると思われる。

4.今後の方針

評価方法が平成27年度前期から各科目のAB評価(肯定的な評価)のみを示すように変更されているが、その内容をよく確認し、改善すべき点を今後も分析する必要がある。全体的には肯定的評価が否定的な評価を上回っているが、それ以外の評価も参考にしなければならない。前年度同様シラバスや成績結果などを分析し、対策を検討する。

1.概評

No.1を除いて肯定的評価が95%を超えており、全体としては良好であり、学生の実態と要望に合った授業ができていると言える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	3.4 (1)	0.0 (0)	13.8 (4)	13.8 (4)	10.3 (3)	41.4 (12)	6.9 (2)	6.9 (2)	3.4 (1)	[学生] 「授業内での取り組み」はA評価が多いが、「授業外での取り組み」や「到達目標の達成」についてはB評価が多くなっている。特に「到達目標の達成」は授業直後に自己評価できるものではないかもしれないが、「目標」を授業の中で明確にすることが求められる。
	3.4 (1)	6.9 (2)	24.1 (7)	27.6 (8)	27.6 (8)	6.9 (2)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	17.2 (5)	17.2 (5)	10.3 (3)	27.6 (8)	13.8 (4)	10.3 (3)	
	10.3 (3)	17.2 (5)	24.1 (7)	13.8 (4)	17.2 (5)	17.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	0.0 (0)	10.3 (3)	27.6 (8)	27.6 (8)	24.1 (7)	3.4 (1)	3.4 (1)	
	6.9 (2)	10.3 (3)	24.1 (7)	31.0 (9)	13.8 (4)	13.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	6.9 (2)	6.9 (2)	20.7 (6)	13.8 (4)	31.0 (9)	13.8 (4)	3.4 (1)	3.4 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	6.9 (2)	0.0 (0)	20.7 (6)	34.5 (10)	10.3 (3)	20.7 (6)	3.4 (1)	3.4 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	3.4 (1)	0.0 (0)	6.9 (2)	6.9 (2)	31.0 (9)	13.8 (4)	17.2 (5)	17.2 (5)	3.4 (1)	[授業[内容]] 「シラバスに沿っていない」と評価されている授業がある。当初のシラバスからの変更はあり得るが、学生に理解を求めることが必要で在る。
	3.4 (1)	17.2 (5)	17.2 (5)	20.7 (6)	27.6 (8)	10.3 (3)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	3.4 (1)	24.1 (7)	10.3 (3)	13.8 (4)	27.6 (8)	6.9 (2)	10.3 (3)	
	10.3 (3)	10.3 (3)	31.0 (9)	13.8 (4)	17.2 (5)	17.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	10.3 (3)	17.2 (5)	6.9 (2)	17.2 (5)	17.2 (5)	27.6 (8)	[授業[教え方等]] 概ね評価は良好であるが、若干「両極化傾向」が見られるようである。説明の仕方・授業の進め方については、毎回の授業の中で学生からの何らかのフィードバックを得て、常に改善する姿勢が重要で在る。
	27.6 (8)	17.2 (5)	20.7 (6)	17.2 (5)	13.8 (4)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	13.8 (4)	13.8 (4)	10.3 (3)	10.3 (3)	27.6 (8)	24.1 (7)	
	24.1 (7)	31.0 (9)	13.8 (4)	10.3 (3)	13.8 (4)	6.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	0.0 (0)	20.7 (6)	10.3 (3)	3.4 (1)	34.5 (10)	10.3 (3)	17.2 (5)	
	17.2 (5)	17.2 (5)	27.6 (8)	13.8 (4)	17.2 (5)	6.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	17.2 (5)	13.8 (4)	27.6 (8)	20.7 (6)	20.7 (6)	[環境・設備等] 参考図書についての要望は、昨年に引き続き、担当者の意見を聞きながら対応していく。
	24.1 (7)	20.7 (6)	37.9 (11)	13.8 (4)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	6.9 (2)	6.9 (2)	17.2 (5)	31.0 (9)	34.5 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	
	3.4 (1)	3.4 (1)	10.3 (3)	48.3 (14)	13.8 (4)	13.8 (4)	6.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

昨年度にも指摘したが、教職課程履修者の学習意欲や進路希望は多様である。教職への強い熱意を持つ学生がいる一方で、教員免許取得自体を目的としている、あるいは家族などからの勧めで教職課程を履修している学生もいる。そのため授業運営は難しいが、教職という「キャリア」を考える科目群であるという視点をより強く打ち出し、学生に、それぞれの形での積極的参加を求めている。

4.今後の方針

非常勤講師が多いため、教職課程のポリシーをより明確に打ち出し、その共有を図る。また主体的な授業となるための工夫を共有する方策を考える。

1.概評

大学全体の肯定評価が90%を越えているが、当科では今回、共通質問11項目のうち8項目において、その肯定評価率を越えた。平成27年度前期は2項目、同年度後期は3項目のみであったことを踏まえると、これは大きな成果である。

また、ゼミやスキル系科目を中心とした比較的少人数の科目は高評価なのに対し、人数が多い必修科目等は否定的評価率が増える傾向はあるものの、その中で、今年度からオムニバス形式とした「日本文学入門」は共通質問11項目ともすべて、初めて肯定評価率が90%を越えた。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察
1	0.0 (0)	0.9 (1)	0.9 (1)	7.5 (8)	14.0 (15)	17.8 (19)	29.0 (31)	19.6 (21)	9.3 (10)	0.9 (1)	[学生] 前年度と比較しても、大学全体と比較しても、no.1-3の質問事項に対して肯定評価をする学生の割合は、高水準を維持している。日文の学生の特性として、これら質問項目に対してはAよりもB評価を選択しがちな傾向が見られるものの、やや変化が見られるのはno.4である。C・Dを選択する率は徐々に下がってきている。別途学科質問で、授業の難易度について訊ねているが、「適当である」に当該するAまたはBの回答率は65%以上、難易度の内容「やや易しい」または「やや難しい」に相当するBまたはCの回答率は、有効回答率の65%以上であった。 よって、到達目標を達成するに適当な難易度の授業が、概ね展開されていると考える。
	1.9 (2)	7.5 (8)	27.1 (29)	35.5 (38)	19.6 (21)	5.6 (6)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	2.8 (3)	7.5 (8)	8.4 (9)	12.1 (13)	20.6 (22)	21.5 (23)	12.1 (13)	13.1 (14)	1.9 (2)	
	3.7 (4)	11.2 (12)	13.1 (14)	26.2 (28)	26.2 (28)	13.1 (14)	3.7 (4)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.9 (1)	0.9 (1)	4.7 (5)	9.3 (10)	12.1 (13)	16.8 (18)	17.8 (19)	15.0 (16)	15.9 (17)	6.5 (7)	
	6.5 (7)	20.6 (22)	19.6 (21)	23.4 (25)	15.0 (16)	9.3 (10)	3.7 (4)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	
4	2.8 (3)	8.4 (9)	13.1 (14)	18.7 (20)	18.7 (20)	20.6 (22)	14.0 (15)	1.9 (2)	1.9 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	1.9 (2)	1.9 (2)	18.7 (20)	20.6 (22)	29.9 (32)	17.8 (19)	7.5 (8)	0.9 (1)	0.9 (1)	
5	0.0 (0)	0.9 (1)	1.9 (2)	4.7 (5)	7.5 (8)	15.0 (16)	23.4 (25)	17.8 (19)	23.4 (25)	5.6 (6)	[授業[内容]] 各授業は、シラバスに沿って概ね行われていたことが判る。この肯定率は非常に高く、前年度と比較しても1.8ポイント増加しただけでなく、大学平均も1.5ポイント上回っている。 no.6は、A評価率は前年度より3.2ポイント増した。その分C・D評価率は0.8ポイント減少したが、これは大学平均と同値である。 授業理解度において困難を来している学生が、少数ではあるが一定数いる点については常に念頭におき、今後も有効な策を探していきたい。
	5.6 (6)	20.6 (22)	24.3 (26)	20.6 (22)	15.0 (16)	11.2 (12)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	
6	1.9 (2)	1.9 (2)	6.5 (7)	6.5 (7)	15.0 (16)	20.6 (22)	17.8 (19)	14.0 (15)	13.1 (14)	2.8 (3)	
	2.8 (3)	10.3 (11)	18.7 (20)	28.0 (30)	24.3 (26)	11.2 (12)	1.9 (2)	0.9 (1)	1.9 (2)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.9 (1)	4.7 (5)	5.6 (6)	8.4 (9)	13.1 (14)	10.3 (11)	12.1 (13)	24.3 (26)	20.6 (22)	[授業[教え方等]] 成果としては、no.7-9に対する否定的回答率が、昨年度に比べてそれぞれ、2.5、1.0、2.2ポイント下がり、その分肯定率が上昇した点である。概評にも書いたが、大人数の必修科目において肯定的評価率が劇的に高まったことが、一つの要因であろう。 学科としての取り組み可能な点は、今後も教員間でのアイディア共有をもとに試みて行きたい。
	19.6 (21)	23.4 (25)	19.6 (21)	15.0 (16)	13.1 (14)	6.5 (7)	1.9 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.9 (1)	1.9 (2)	5.6 (6)	6.5 (7)	8.4 (9)	15.0 (16)	9.3 (10)	26.2 (28)	26.2 (28)	
	25.2 (27)	26.2 (28)	13.1 (14)	20.6 (22)	12.1 (13)	1.9 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.9 (1)	4.7 (5)	5.6 (6)	9.3 (10)	14.0 (15)	12.1 (13)	19.6 (21)	17.8 (19)	15.9 (17)	
	14.0 (15)	21.5 (23)	22.4 (24)	17.8 (19)	15.9 (17)	4.7 (5)	2.8 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.9 (2)	6.5 (7)	11.2 (12)	16.8 (18)	22.4 (24)	24.3 (26)	16.8 (18)	[環境・設備等] 学習環境に関しては、前年度に比べて0.5ポイント減少したものの、否定的評価率が大学平均よりもつねに高めである。 興味深いことに、必修で且つ履修者数の多い授業に対してよりも、選択必修の科目で履修者数の多い科目の方が、否定的評価が高い点である。また、必ずしも教室が広ければよいというわけでもないことも判る。 曜講の関係によって教室は決まることもあり、学習環境改善については改善の難しい面もあるが、可能なかぎりの調整に今後とも努めたい。
	20.6 (22)	26.2 (28)	23.4 (25)	25.2 (27)	2.8 (3)	1.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	2.8 (3)	9.3 (10)	19.6 (21)	27.1 (29)	26.2 (28)	7.5 (8)	5.6 (6)	1.9 (2)	
	3.7 (4)	5.6 (6)	21.5 (23)	30.8 (33)	23.4 (25)	11.2 (12)	2.8 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

新しい授業改善アンケート内容に変わり、3回目の結果が示されたが、授業に対する興味・理解・難易度のいずれもA評価がB評価を上回っている。しかし、自身の到達度に関しては、B評価をする者の方が、A評価をする者よりも、いずれの回でも上回った。これは、本科の学生の「傾向」として認められるものだろうと判ずる。
これが厳しい自己評価の結果であるのか否かを見るために、学科独自の質問事項で、授業の難易度について前年度後期から質問をしているが、既にも上記に述べたとおり、難易度は適当と感じている学生が多い。
但し、学科独自の質問については全体に無効率が高く、この点は大いに改善を要する。今後、回答の徹底を呼びかけたい。

4.今後の方針

全体として、肯定的回答率が高止まりしているものの、この結果に満足せず、教員各自がそれぞれの結果を吟味し、また全体的傾向を把握することで、改善点を見出すことが第一である点是不変。
その上で、各自が教授法を磨くとともに、学生の傾向・課題点等の情報の共有も肝要である。常勤教員は科会等で密に報告を行い、非常勤の先生方にはアンケートや機会ごとの聴取を怠らないよう努めたい。

1.概評

今回は授業内容、授業の教え方などの点でA(その通り)+B(どちらかというとその通り)でみると全学平均を下回っていたものがある。特に教え方については三項目すべて全学平均を下回っているため、評価の特に低かった教員と個別面談を行い、授業内容の精査、教え方の改善を促す予定である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.6 (1)	5.1 (9)	8.0 (14)	16.0 (28)	18.3 (32)	17.1 (30)	10.3 (18)	13.1 (23)	11.4 (20)	[学生] 問3でAの回答が全学平均を10.2%、問3では13.5%、問4では15.1% 上回っていた。学生が積極的取り組み、授業外学習もおこない、到達目標に達成したと自己評価していることがわかる。
	11.4 (20)	15.4 (27)	18.3 (32)	21.7 (38)	20.0 (35)	9.1 (16)	4.0 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.1 (2)	1.1 (2)	8.0 (14)	4.0 (7)	17.7 (31)	18.3 (32)	18.9 (33)	17.1 (30)	13.7 (24)	
	13.1 (23)	15.4 (27)	24.0 (42)	23.4 (41)	13.7 (24)	6.3 (11)	2.3 (4)	1.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (6)	4.0 (7)	13.1 (23)	16.0 (28)	21.1 (37)	18.3 (32)	24.0 (42)	
	20.0 (35)	23.4 (41)	25.1 (44)	17.7 (31)	9.1 (16)	4.0 (7)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.1 (2)	1.1 (2)	8.6 (15)	8.0 (14)	14.3 (25)	17.1 (30)	14.9 (26)	18.3 (32)	9.7 (17)	6.9 (12)	
	5.1 (9)	11.4 (20)	22.3 (39)	17.7 (31)	20.6 (36)	12.0 (21)	8.0 (14)	2.3 (4)	0.6 (1)	0.0 (0)	
5	0.6 (1)	2.3 (4)	2.3 (4)	2.9 (5)	7.4 (13)	5.7 (10)	16.6 (29)	22.3 (39)	20.0 (35)	20.0 (35)	[授業[内容]] 問5、問6はA評価のみでみると全学平均よりも高いが、A+B評価、C評価、D評価は全学平均よりも悪い結果となっている。C+Dの評価は一部教員が突出して高くなっているため、シラバスの意義を今一度理解いただけるように当該教員には説明する予定である。
	18.9 (33)	22.3 (39)	26.9 (47)	15.4 (27)	8.6 (15)	6.9 (12)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	2.3 (4)	4.0 (7)	3.4 (6)	3.4 (6)	5.1 (9)	13.1 (23)	16.6 (29)	11.4 (20)	20.6 (36)	20.0 (35)	
	18.3 (32)	18.9 (33)	20.0 (35)	21.7 (38)	12.6 (22)	6.9 (12)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.6 (1)	0.0 (0)	
7	2.9 (5)	5.1 (9)	2.3 (4)	2.9 (5)	4.0 (7)	6.3 (11)	10.9 (19)	14.3 (25)	20.0 (35)	31.4 (55)	[授業[教え方等]] 問7～9もA評価のみでみると全学平均よりも高いが、A+B評価、C評価、D評価は全学平均よりも悪い結果となっている。C+Dの評価は一部教員が突出して高くなっているため、当該教員とは個別に話し合いの機会を持つ予定である。
	29.7 (52)	22.3 (39)	22.3 (39)	12.0 (21)	9.1 (16)	3.4 (6)	0.6 (1)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	2.3 (4)	3.4 (6)	4.6 (8)	2.9 (5)	2.9 (5)	3.4 (6)	10.3 (18)	18.9 (33)	19.4 (34)	32.0 (56)	
	30.9 (54)	23.4 (41)	20.0 (35)	14.3 (25)	6.3 (11)	4.0 (7)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	4.0 (7)	3.4 (6)	3.4 (6)	4.0 (7)	2.9 (5)	8.0 (14)	13.1 (23)	15.4 (27)	16.6 (29)	29.1 (51)	
	29.1 (51)	19.4 (34)	20.6 (36)	16.6 (29)	8.6 (15)	2.9 (5)	1.1 (2)	1.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (5)	1.7 (3)	5.7 (10)	7.4 (13)	10.3 (18)	23.4 (41)	19.4 (34)	29.1 (51)	[環境・設備等] 学習環境、図書館の設問ともにA+Bは全学平均を上回っている。
	31.4 (55)	20.0 (35)	26.9 (47)	12.6 (22)	5.7 (10)	2.3 (4)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.1 (2)	2.9 (5)	7.4 (13)	12.0 (21)	14.3 (25)	20.0 (35)	17.1 (30)	14.3 (25)	10.9 (19)	
	12.6 (22)	23.4 (41)	18.3 (32)	20.6 (36)	16.0 (28)	6.3 (11)	2.9 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

英語で教える科目、英語を外国語として学ぶ科目を教えているため学生の負荷が高いという特性を差し引いても、今年度は授業[内容][教え方等]でA+Bの評価が全額平均を下回っていることが懸念材料である。授業参観も含め、今後の施策を検討していきたい。

4.今後の方針

今年度は新規に教員を採用したこともあり、3月末に非常勤連絡会を開催し、授業参観も前期に行っている。次年度より新学部になるが、必修クラスを中心に授業内容の見直しを含めて質向上を目指していきたい。

1.概評

前期開設科目のうち89科目でアンケートを実施した。全体集計結果より低い項目は2項目（問10、問11）であり、肯定的評価が全体を上回ったのは7項目（問1、問4、問5、問6、問7、問8、問9、）である。2項目（問2、問3）は、昨年度より数値は上がったものの、全体とはほぼ同率であった。よって今年度前期授業の状況は、授業改善の効果が明らか数値に表れてきたものと思われる。その一方で、長年の課題である環境と設備面での評価は、昨年度の数値より上がってはいるが、今期も全体より低い。引き続き、図書館へ積極的に要望して行くと共に、参考文献の検索や、研究方法に関する具体的指導に力点を置いていくよう検討したい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	7.9 (7)	19.1 (17)	25.8 (23)	27.0 (24)	12.4 (11)	3.4 (3)	3.4 (3)	[学生] シラバスを確認する項目でポイントが平均を上回ってきたのは、学生自身が履修登録方法を理解し、便覧およびシラバスの確認が重要であることの意識が高まったからであろう。ただし、必修科目では、選択の余地のない科目であることから、ポイントが低い傾向にあるのではないと思われる。授業外の学習については、昨年度より高まったが、全学的には同様の値である。能動的に学習するよう学習意欲を高める工夫が必要であろう。
	4.5 (4)	1.1 (1)	21.3 (19)	33.7 (30)	28.1 (25)	9.0 (8)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.1 (1)	6.7 (6)	14.6 (13)	14.6 (13)	27.0 (24)	16.9 (15)	7.9 (7)	5.6 (5)	5.6 (5)	
	6.7 (6)	3.4 (3)	10.1 (9)	24.7 (22)	22.5 (20)	21.3 (19)	11.2 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	9.0 (8)	14.6 (13)	11.2 (10)	14.6 (13)	20.2 (18)	13.5 (12)	9.0 (8)	7.9 (7)	
	7.9 (7)	11.2 (10)	18.0 (16)	16.9 (15)	23.6 (21)	18.0 (16)	3.4 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	9.0 (8)	18.0 (16)	18.0 (16)	27.0 (24)	14.6 (13)	5.6 (5)	3.4 (3)	3.4 (3)	1.1 (1)	
	0.0 (0)	4.5 (4)	4.5 (4)	6.7 (6)	21.3 (19)	34.8 (31)	22.5 (20)	3.4 (3)	2.2 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	9.0 (8)	15.7 (14)	24.7 (22)	23.6 (21)	11.2 (10)	10.1 (9)	4.5 (4)	[授業[内容]] シラバスに記載された授業運営が行われたか、については、昨年度よりも向上し全体平均も上回った。授業内容が理解できたか、についても昨年度の値より上回り、全体的に教員の授業の進め方に改善が行われたものと評価したい。評価がやや低い担当者には学科から改善の方策について検討していただくよう申し入れを行なってゆく。
	3.4 (3)	11.2 (10)	15.7 (14)	29.2 (26)	21.3 (19)	12.4 (11)	5.6 (5)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	3.4 (3)	1.1 (1)	14.6 (13)	19.1 (17)	15.7 (14)	24.7 (22)	6.7 (6)	11.2 (10)	3.4 (3)	[授業[教え方等]] 説明の明快さ、よく聞き取れたか、進め方が効果的か、についてはいずれも全体平均を上回り、昨年度よりも評価が高く、教員の授業に対する取り組みや工夫が評価されたと考える。評価がやや低い担当者については、引き続き学科から改善の方策について検討していただくよう申し入れを行なってゆく。
	4.5 (4)	9.0 (8)	12.4 (11)	21.3 (19)	31.5 (28)	18.0 (16)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (3)	9.0 (8)	14.6 (13)	11.2 (10)	20.2 (18)	12.4 (11)	16.9 (15)	12.4 (11)	
	12.4 (11)	18.0 (16)	19.1 (17)	23.6 (21)	13.5 (12)	12.4 (11)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	5.6 (5)	12.4 (11)	12.4 (11)	20.2 (18)	20.2 (18)	9.0 (8)	18.0 (16)	
	18.0 (16)	13.5 (12)	22.5 (20)	22.5 (20)	15.7 (14)	7.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.1 (1)	4.5 (4)	7.9 (7)	15.7 (14)	13.5 (12)	21.3 (19)	14.6 (13)	14.6 (13)	6.7 (6)	
	7.9 (7)	12.4 (11)	23.6 (21)	21.3 (19)	20.2 (18)	11.2 (10)	2.2 (2)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	5.6 (5)	14.6 (13)	12.4 (11)	23.6 (21)	22.5 (20)	15.7 (14)	4.5 (4)	[環境・設備等] いずれの設問も前年度に比べると数値は上がったが、やはり全学的には下回っている。必修科目他、履修者多数の授業は、環境に関する評価が低い傾向にある。可能な限り適正な教室の確保に努めてゆく。また、必要図書を教員・学生から要望する活動も継続するが、調査資料の検索方法や、文献の使い方などの学習指導にも力を入れてゆきたい。
	4.5 (4)	18.0 (16)	29.2 (26)	27.0 (24)	18.0 (16)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.1 (1)	10.1 (9)	12.4 (11)	24.7 (22)	30.3 (27)	13.5 (12)	7.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	9.0 (8)	12.4 (11)	25.8 (23)	31.5 (28)	18.0 (16)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

・参考書の充実については、1年次必修科目の歴史文化基礎での評価が低いことと関連し、課題のテーマに合致する参考書がないと感じる場合が多いと考えられる。論文検索や地域図書館の利用など、どのような文献を資料として用いるのか、文献の性格や検索の方法について指導を徹底したい。

・各学年の学科必修科目や資格にかかわる必修科目では、シラバスの事前確認や積極的な取り組み、授業の理解に対する評価が低く出る傾向がある。このことは、授業内容への興味を高めるために、担当者の工夫の余地はあるかと思われるが、学生の受け身になりがちな空気が周囲に影響する場合も大きいと考えられる。同じ担当者の他の科目においては良好な結果が出ていることから裏付けられる。見直しを行うと共に、学生に必修の意義をしっかりと理解させるよう心掛けて、学習意欲や満足感が得られるよう取り組んでゆく。

4.今後の方針

評価の低い項目については学科で情報を共有し、より学生の学習意欲を引き出し、学習に対する満足度を上げることが出来るよう取り組んでゆきたい。

1.概評
今年度前期にひらいた129科目のアンケートをとった。おしえかたを問う7, 8, 9で全体平均をうわまわる。昨年度後期からいささか評価がひくくなるのは、毎年の傾向である。すべて比較したわけではないが、演習科目のほうが講義科目より評価がたかいようである。

2.各質問の評価とその考察
各質問の肯定的（A, B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.8 (1)	4.7 (6)	24.8 (32)	17.1 (22)	18.6 (24)	12.4 (16)	8.5 (11)	7.8 (10)	3.9 (5)	1.6 (2)	[学生] 例年，後期にくらべ前期は肯定率（A+B）がひくい．たとえば問01は85.9%（2015年度後期91.2%）．はじめて大学生活をおくる新入学生の影響によるものとおぼしい．
	1.6 (2)	7.0 (9)	11.6 (15)	21.7 (28)	23.3 (30)	25.6 (33)	4.7 (6)	2.3 (3)	2.3 (3)	0.0 (0)	
2	0.8 (1)	2.3 (3)	7.0 (9)	17.8 (23)	14.0 (18)	18.6 (24)	20.9 (27)	14.0 (18)	3.1 (4)	1.6 (2)	
	1.6 (2)	3.9 (5)	15.5 (20)	20.9 (27)	21.7 (28)	20.9 (27)	14.0 (18)	0.8 (1)	0.8 (1)	0.0 (0)	
3	0.8 (1)	1.6 (2)	7.8 (10)	13.2 (17)	17.8 (23)	17.8 (23)	17.8 (23)	13.2 (17)	5.4 (7)	4.7 (6)	
	4.7 (6)	8.5 (11)	16.3 (21)	20.9 (27)	21.7 (28)	17.8 (23)	6.2 (8)	1.6 (2)	2.3 (3)	0.0 (0)	
4	2.3 (3)	8.5 (11)	20.9 (27)	25.6 (33)	16.3 (21)	14.7 (19)	6.2 (8)	3.9 (5)	0.8 (1)	0.8 (1)	
	0.8 (1)	0.8 (1)	4.7 (6)	9.3 (12)	18.6 (24)	31.8 (41)	23.3 (30)	7.8 (10)	2.3 (3)	0.8 (1)	
5	0.8 (1)	1.6 (2)	7.8 (10)	10.1 (13)	25.6 (33)	18.6 (24)	9.3 (12)	14.7 (19)	8.5 (11)	3.1 (4)	[授業[内容]] どちらも昨年度後期をしまわるものの，問06が昨年度前期よりたかいはすくいである．
	3.1 (4)	10.1 (13)	16.3 (21)	16.3 (21)	18.6 (24)	24.8 (32)	4.7 (6)	0.8 (1)	5.4 (7)	0.0 (0)	
6	0.8 (1)	3.9 (5)	7.0 (9)	14.0 (18)	13.2 (17)	20.9 (27)	22.5 (29)	10.9 (14)	3.9 (5)	3.1 (4)	
	3.9 (5)	4.7 (6)	13.2 (17)	25.6 (33)	19.4 (25)	21.7 (28)	9.3 (12)	1.6 (2)	0.8 (1)	0.0 (0)	
7	0.8 (1)	3.1 (4)	5.4 (7)	7.8 (10)	12.4 (16)	10.1 (13)	12.4 (16)	21.7 (28)	19.4 (25)	7.0 (9)	[授業[教え方等]] いずれも昨年度よりひくいものの，誤差の範囲内とおもわれる．
	10.1 (13)	15.5 (20)	24.0 (31)	19.4 (25)	10.1 (13)	12.4 (16)	5.4 (7)	0.8 (1)	2.3 (3)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	2.3 (3)	7.8 (10)	7.0 (9)	9.3 (12)	7.0 (9)	18.6 (24)	19.4 (25)	17.8 (23)	10.9 (14)	
	8.5 (11)	20.2 (26)	22.5 (29)	21.7 (28)	9.3 (12)	10.9 (14)	3.1 (4)	3.1 (4)	0.8 (1)	0.0 (0)	
9	0.8 (1)	2.3 (3)	7.8 (10)	6.2 (8)	15.5 (20)	14.7 (19)	12.4 (16)	19.4 (25)	14.7 (19)	6.2 (8)	
	4.7 (6)	17.8 (23)	20.9 (27)	20.2 (26)	17.1 (22)	14.0 (18)	3.1 (4)	1.6 (2)	0.8 (1)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (4)	3.9 (5)	13.2 (17)	15.5 (20)	15.5 (20)	20.2 (26)	20.9 (27)	7.8 (10)	[環境・設備等] 評価は90%をこえ一件たかそうにみえるが，学科がおもに使用する3号館の設備・環境は，学生に不評である．
	9.3 (12)	22.5 (29)	20.9 (27)	21.7 (28)	14.0 (18)	7.0 (9)	3.9 (5)	0.0 (0)	0.8 (1)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.6 (2)	7.8 (10)	16.3 (21)	22.5 (29)	23.3 (30)	14.0 (18)	9.3 (12)	3.9 (5)	1.6 (2)	
	3.1 (4)	7.0 (9)	10.9 (14)	20.9 (27)	24.0 (31)	25.6 (33)	7.0 (9)	0.8 (1)	0.8 (1)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科独自の質問はもうけていない。

4.今後の方針

学科発足8年めにして、ようやく科目がととのってきた。新学部がはじめる来年度からカリキュラムを定着させていく。

1.概評

肯定的評価の値は、大学全体平均よりも若干低めであるものの、総じて8～9割を維持しており学生満足において一定の評価を得ていると考える。一方、A評価のボリュームゾーンを過年度と比較すると、③④⑤⑦⑧の項目において改善傾向を示しており、学生満足の実質化が進みつつあると判断できる。次学期は、横ばい傾向が読み取れる学生の履修前の取組み（シラバス閲読）及び、図書館等における参考書の充実にフォーカスして、学修参加意欲を高めることに取り組んでいきたい。また、学科全体として取り組むアクティブラーニングの推進については、教員間の情報共有とプロジェクト現場でのPBL教授法の開発、ICTの活用を継続していく。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤<10	10≤<20	20≤<30	30≤<40	40≤<50	50≤<60	60≤<70	70≤<80	80≤<90	90≤<100	考察
1	1.3 (1)	5.0 (4)	11.3 (9)	18.8 (15)	13.8 (11)	16.3 (13)	18.8 (15)	7.5 (6)	3.8 (3)	3.8 (3)	【学生】 ①シラバスの閲読、②講義への取り組み姿勢、③授業外学習、④講義到達目標の達成のいずれにおいても、8～9割程度が肯定的評価（A+B評価）であり、概ね良好であった。ボリュームゾーンに注目すると、③及び④の項目において前学期よりも大きく改善したといえる。①及び②についても徐々に改善しつつあるが、前回と同様の傾向が続いている。当学科においては、英語や専門科目など1年次の必修科目が多く、学科登録のため、事前のシラバス閲読の習慣づくりが重要となる。引き続き、期初の教務ガイダンスや講義第1回目において、シラバスの閲読や講義の達成目標の周知に取り組み、学生の意識改善に努めたい。
	7.5 (6)	5.0 (4)	16.3 (13)	31.3 (25)	18.8 (15)	16.3 (13)	5.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	3.8 (3)	2.5 (2)	12.5 (10)	23.8 (19)	12.5 (10)	15.0 (12)	12.5 (10)	10.0 (8)	7.5 (6)	
	8.8 (7)	6.3 (5)	18.8 (15)	16.3 (13)	21.3 (17)	21.3 (17)	6.3 (5)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	2.5 (2)	5.0 (4)	13.8 (11)	10.0 (8)	13.8 (11)	25.0 (20)	16.3 (13)	6.3 (5)	7.5 (6)	
	10.0 (8)	6.3 (5)	27.5 (22)	22.5 (18)	17.5 (14)	12.5 (10)	3.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	6.3 (5)	11.3 (9)	12.5 (10)	12.5 (10)	20.0 (16)	12.5 (10)	15.0 (12)	6.3 (5)	1.3 (1)	2.5 (2)	
	2.5 (2)	3.8 (3)	7.5 (6)	17.5 (14)	25.0 (20)	22.5 (18)	16.3 (13)	3.8 (3)	1.3 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.3 (1)	3.8 (3)	8.8 (7)	20.0 (16)	17.5 (14)	21.3 (17)	8.8 (7)	13.8 (11)	5.0 (4)	【授業[内容]】 ⑤シラバス記載内容の実質化、⑥講義内容の理解については、学科全体として9割の肯定的評価（A+B評価）が維持されており良好と言える。⑤についてはボリュームゾーンが上方にシフトしており、改善傾向が伺える。肯定的評価の構成を見ると、理論学習が必要な科目についてB評価の比重が高い（前学期と同様）が、基礎ゼミや英語、1年生向けの専門講義などの分野で学科内分科会を組織しての検討が定着しつつあり、教員間で知識定着を促す仕組みの開発（事前学習課題の提供、反転授業、プレゼンテーション、フィードバックなど）を進めていきたい。
	5.0 (4)	13.8 (11)	16.3 (13)	26.3 (21)	17.5 (14)	15.0 (12)	5.0 (4)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	2.5 (2)	2.5 (2)	6.3 (5)	7.5 (6)	11.3 (9)	22.5 (18)	20.0 (16)	10.0 (8)	8.8 (7)	8.8 (7)	
	8.8 (7)	8.8 (7)	12.5 (10)	32.5 (26)	20.0 (16)	11.3 (9)	6.3 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.3 (1)	5.0 (4)	2.5 (2)	5.0 (4)	11.3 (9)	12.5 (10)	17.5 (14)	10.0 (8)	20.0 (16)	15.0 (12)	【授業[教え方等]】 ⑦教員の説明の明快さ、⑧聞き取り易さ、⑨講義の進め方については、学科全体として9割の肯定的評価（A+B評価）を得ており良好な状態を維持している。特に⑦及び⑧において改善傾向がみられる。学科では全教員が、学生によるディスカッションやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング型講義の運営に取り組んでいる。講義内での学生との対話を通じて、学生自らが常に考え表現する姿勢を涵養する取組みを継続し、3年次以降のプロジェクト活動の活性化につなげたい。
	16.3 (13)	21.3 (17)	13.8 (11)	18.8 (15)	17.5 (14)	8.8 (7)	2.5 (2)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	6.3 (5)	1.3 (1)	2.5 (2)	8.8 (7)	12.5 (10)	18.8 (15)	13.8 (11)	20.0 (16)	16.3 (13)	
	16.3 (13)	25.0 (20)	13.8 (11)	20.0 (16)	15.0 (12)	6.3 (5)	3.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	3.8 (3)	3.8 (3)	3.8 (3)	6.3 (5)	20.0 (16)	18.8 (15)	17.5 (14)	16.3 (13)	10.0 (8)	
	10.0 (8)	15.0 (12)	26.3 (21)	26.3 (21)	16.3 (13)	5.0 (4)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.5 (2)	3.8 (3)	11.3 (9)	18.8 (15)	30.0 (24)	17.5 (14)	16.3 (13)	【環境・設備等】 ⑩学習環境、⑪図書館の充実に対しては、学科全体として一定の高い評価を維持しているが、専門科目に資する参考書（経済・経営系を含む社会科学領域）の図書館における整備状況の評価は、大学全体と比較して低い値に留まっている。⑩については、躍講の工夫や教室選択の面に対応していきたいと考えるが、⑪については、図書館と連携して当該領域の専門書・雑誌検索データベースの充実を図ると共に、学科リソースルームの資料の充実と活用を学生に促していきたい。
	17.5 (14)	32.5 (26)	26.3 (21)	15.0 (12)	6.3 (5)	2.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	3.8 (3)	5.0 (4)	12.5 (10)	11.3 (9)	22.5 (18)	16.3 (13)	15.0 (12)	5.0 (4)	7.5 (6)	1.3 (1)	
	6.3 (5)	17.5 (14)	18.8 (15)	23.8 (19)	21.3 (17)	10.0 (8)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科の特色として、ケーススタディやプロジェクト学習を通じた学びに資するよう、学科内で独自設問を検討中である。

4.今後の方針

- 1) 初年次対象の経済・経営系科目については、次年度より6科目体制を導入する。経営・経済分野の入門科目として科目間の連携を検討する場を立ち上げたい。
- 2) スキル系科目(英語やコンピュータ他)、基礎ゼミの領域における担当教員間の対話を継続し、定期的な分科会(学科内FD)を通じて、効果的な教授法の開発と共有を図る。同プログラム管理を進めるため、各領域のコーディネータの役割を強化する。
- 3) 2年次前期のボストンプログラム(グローバルビジネスプログラム)について、ボストン教員との共時的なコミュニケーションを深め、教授法やプログラムメニューの発展を図る。
- 4) 講義においてはアクティブラーニングを継続して推進し、授業外学習の習慣化を通じてアウトプット(成果報告会やチームペーパー、報告書の作成など)の質の向上を図る。プロジェクト活動では、PBLの評価方法、成果の表現方法、ピア・ラーニングに取り組む学科カルチャーの醸成方法を継続的に検討する。
- 5) 学生の自主性を涵養できるよう、課題内容、提出物管理、フィードバックの工夫に努める。卒業に向けた履修計画の立案過程を通じて、学生の自律性を高める。
- 6) FD講演会、FDサロンへの参加、また学外での研修会などを通じた新たな教授法の習得に努める。
- 7) ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーの見直し作業を開始する。

1.概評

いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%前後と高い値を示し、学生の学習態度、教員の授業運営双方に良好であることが確認できた。引き続き、学生の主体的な学びを促し、授業運営の改善に取り組んでいきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	22.6 (7)	22.6 (7)	25.8 (8)	19.4 (6)	6.5 (2)	3.2 (1)	0.0 (0)	[学生] いずれの設問も肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%前後で、学生の自己評価は高かったといえる。昨年度に比べ、授業外の学習（設問No.3）や到達目標達成（設問No.4）において改善がみられた。ただし、授業外の学習（設問No.3）は科目間で評価のばらつきが大きく、各科目で授業外学習をさらに促していきたい。
	0.0 (0)	3.2 (1)	6.5 (2)	29.0 (9)	35.5 (11)	22.6 (7)	3.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	6.5 (2)	3.2 (1)	35.5 (11)	12.9 (4)	19.4 (6)	12.9 (4)	6.5 (2)	3.2 (1)	0.0 (0)	
	3.2 (1)	0.0 (0)	9.7 (3)	16.1 (5)	16.1 (5)	32.3 (10)	19.4 (6)	0.0 (0)	3.2 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	19.4 (6)	3.2 (1)	3.2 (1)	25.8 (8)	35.5 (11)	6.5 (2)	6.5 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	9.7 (3)	12.9 (4)	29.0 (9)	32.3 (10)	9.7 (3)	6.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	12.9 (4)	22.6 (7)	35.5 (11)	19.4 (6)	6.5 (2)	3.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (1)	3.2 (1)	9.7 (3)	32.3 (10)	38.7 (12)	9.7 (3)	3.2 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (1)	16.1 (5)	41.9 (13)	25.8 (8)	6.5 (2)	6.5 (2)	0.0 (0)	[授業[内容]] いずれの設問も肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%以上で、各教員がシラバスに沿った授業を展開し、学生も授業内容をよく理解したことがうかがえる。
	0.0 (0)	6.5 (2)	9.7 (3)	38.7 (12)	25.8 (8)	19.4 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	9.7 (3)	19.4 (6)	38.7 (12)	12.9 (4)	9.7 (3)	9.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	9.7 (3)	9.7 (3)	32.3 (10)	32.3 (10)	16.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (1)	9.7 (3)	22.6 (7)	19.4 (6)	22.6 (7)	19.4 (6)	0.0 (0)	3.2 (1)	[授業[教え方等]] いずれの設問も肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%以上で、各授業の進め方は適切であったと考えられる。ただし、説明の明快さ（設問No.7）は評価のばらつきが大きかった。各科目で学生が理解しやすい授業をさらにこころがけていく。
	3.2 (1)	3.2 (1)	16.1 (5)	45.2 (14)	19.4 (6)	12.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	25.8 (8)	12.9 (4)	35.5 (11)	16.1 (5)	6.5 (2)	3.2 (1)	
	3.2 (1)	9.7 (3)	16.1 (5)	38.7 (12)	19.4 (6)	12.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.9 (4)	19.4 (6)	29.0 (9)	22.6 (7)	12.9 (4)	3.2 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.2 (1)	16.1 (5)	38.7 (12)	32.3 (10)	9.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.5 (2)	22.6 (7)	22.6 (7)	25.8 (8)	16.1 (5)	6.5 (2)	0.0 (0)	[環境・設備等] いずれの設問も肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%以上で環境・設備においても良好な評価であったといえる。学習環境（設問No.10）は評価のばらつきが大きかった。各科目の想定される履修人数に適切な教室配置を一層こころがけたい。
	0.0 (0)	6.5 (2)	22.6 (7)	38.7 (12)	22.6 (7)	9.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	9.7 (3)	29.0 (9)	29.0 (9)	22.6 (7)	3.2 (1)	6.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	6.5 (2)	0.0 (0)	19.4 (6)	35.5 (11)	25.8 (8)	12.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科の専門教育科目群を講義系科目群(13科目)と実験実習系科目群(9科目)に分け、各設問の肯定的評価の割合を比較した。両科目群とも肯定的評価の割合はどの設問においても90%前後かそれ以上であり、いずれの科目群においても良好な結果であった。昨年度の比較では両科目群に差がみられ、講義系科目のほうが「授業理解」(No.6)の評価が高く、実験実習科目のほうが「授業への積極的取り組み」(No.2)などへの評価が高かったが、本年度の比較ではいずれの項目においても両科目群に差がみられなかった。講義系科目においても学生の能動的な取り組みが進み、また、実習実験系科目においては各科目の達成目標をより具体的に学生に明示するなどして、知識や技能の体得が意識化されるような取り組みが成果を上げていると思われる。

さらに、必修科目群(6科目)と選択科目群(16科目)との肯定的評価の割合の比較も行ったところ、必修科目に比べ選択科目において「授業理解」(No.6)や「到達目標」(No.4)などの評価が高かった。必修科目は履修者数が多い上に、学生の関心や基礎学力に個人差が大きいことが一因と考えられ、今後の対応に検討を要するものとする。

4.今後の方針

来年度より学科の定員が増加することもふまえ、特に必修科目において授業の理解度を高めるため、学生の個人差に対応したきめ細かい授業運営を行っていきたい。なかでも、必修の実験実習科目である「基礎実験」「データ解析実習Ⅰ」では担当教員数を増員し、より少人数での授業運営を計画している。また、その他の科目においても学習環境改善のために履修人数に応じた適切な教室配置をこころがけたい。

1.概評

問いのなかでも、「学生」のNo2～5、8、10において平成27年度前期に比較してA・B評価の割合が上昇していた。平成28年度の1年生の学生規模が小さくなったことで、授業の環境が改善されたこと、そして学生数が多い学年が3年になり、専門演習、実習関連の科目など、より専門的な内容について学習するようになったこと、そして個々の教員が課題設定を適切に実施した点が、この結果につながったと考える。こうした評価の成果は、国家試験模擬試験、実習での実習機関からの評価といった第3者での評価でも現れているかを引き続き検証していきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察
1	0.0 (0)	3.9 (3)	3.9 (3)	11.7 (9)	16.9 (13)	26.0 (20)	19.5 (15)	10.4 (8)	5.2 (4)	2.6 (2)	【学生】 No2、3、4において平成27年度前期よりも改善していた。ただ、No4のシラバスの事前の確認においては、低い評価の割合は昨年と同様であった。考えられる要因としては、資格取得のための科目であるために自分で内容を検討して選択する必要がないこと、そして科目名から内容を推測することで主体的に確認をする意識が低くなりがちとなるのではと考える。ただ、それぞれの専門科目が他の科目とどのように異なり、どの点で連動しているのかを理解して学ぶことが実習での知識や技術を身に着けるうえで非常に重要であることから、授業初めに教員がていねいに内容とゴールを確認する必要がある。各教員の改善報告書でも、今後の取り組みとして内容の説明を充実させていく旨を記載いただいているため、今後も非常勤懇談会などで意見を共有していく。
	2.6 (2)	10.4 (8)	13.0 (10)	18.2 (14)	31.2 (24)	14.3 (11)	5.2 (4)	2.6 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.3 (1)	5.2 (4)	15.6 (12)	10.4 (8)	20.8 (16)	20.8 (16)	9.1 (7)	11.7 (9)	5.2 (4)	
	6.5 (5)	7.8 (6)	14.3 (11)	22.1 (17)	18.2 (14)	20.8 (16)	6.5 (5)	2.6 (2)	1.3 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (2)	7.8 (6)	11.7 (9)	22.1 (17)	18.2 (14)	18.2 (14)	10.4 (8)	9.1 (7)	
	10.4 (8)	9.1 (7)	20.8 (16)	27.3 (21)	16.9 (13)	13.0 (10)	1.3 (1)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	5.2 (4)	15.6 (12)	15.6 (12)	16.9 (13)	22.1 (17)	7.8 (6)	10.4 (8)	3.9 (3)	2.6 (2)	
	3.9 (3)	3.9 (3)	10.4 (8)	5.2 (4)	28.6 (22)	15.6 (12)	20.8 (16)	7.8 (6)	2.6 (2)	1.3 (1)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (2)	2.6 (2)	15.6 (12)	20.8 (16)	26.0 (20)	11.7 (9)	14.3 (11)	6.5 (5)	【授業[内容]】 授業内容や進め方については、平成27年度に引き続き全体的に評価は高い。一方で、「～論」などの基礎理論を学ぶ科目、福祉制度の基礎を学ぶ科目では内容に関する理解において低い評価になる傾向は、昨年に引き続き同様であった。この点は引き続き改善したい。また、実際には「資格取得で必要だから履修した」という理由で履修している場合、学生も意欲が低い状態で履修していることもあるため、授業の前半で学生の意欲を高めることを意識した講義を展開いただけるよう学科でも動きかけていく。
	6.5 (5)	15.6 (12)	14.3 (11)	24.7 (19)	14.3 (11)	22.1 (17)	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	3.9 (3)	13.0 (10)	20.8 (16)	16.9 (13)	14.3 (11)	14.3 (11)	10.4 (8)	6.5 (5)	
	7.8 (6)	14.3 (11)	11.7 (9)	15.6 (12)	20.8 (16)	22.1 (17)	6.5 (5)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.3 (1)	2.6 (2)	5.2 (4)	14.3 (11)	15.6 (12)	16.9 (13)	13.0 (10)	18.2 (14)	13.0 (10)	【授業[教え方等]】 自由記述では、具体的な事例の提示、教員の経験談、映像の視聴等に対し、「学びで役立った、興味を持つことができた」という点が示された。人の生活と具体的にに関わりがあるようなトピックや演習を含む授業形態においては高い意欲を有しているため、こうした学生の志向と教員の授業の進行やツールの選定がかみ合った結果であると捉えている。また、「教室の環境と話が聞き取れるか」という回答とも連動していると思われるため、教員の授業の教え方だけではなく、環境について大学で配慮が必要なのかも確認していきたい。
	11.7 (9)	20.8 (16)	14.3 (11)	20.8 (16)	18.2 (14)	13.0 (10)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.3 (1)	2.6 (2)	1.3 (1)	11.7 (9)	16.9 (13)	19.5 (15)	16.9 (13)	14.3 (11)	15.6 (12)	
	14.3 (11)	20.8 (16)	14.3 (11)	22.1 (17)	19.5 (15)	6.5 (5)	1.3 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.3 (1)	3.9 (3)	7.8 (6)	11.7 (9)	18.2 (14)	18.2 (14)	9.1 (7)	14.3 (11)	15.6 (12)	
	18.2 (14)	13.0 (10)	11.7 (9)	20.8 (16)	24.7 (19)	6.5 (5)	2.6 (2)	1.3 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	1.3 (1)	3.9 (3)	22.1 (17)	22.1 (17)	13.0 (10)	16.9 (13)	19.5 (15)	【環境・設備等】 「学習環境は良好であったか」については昨年に比較して評価の数値が上昇傾向にあった。特に専門科目や実習関連科目において評価が高かった。厚生労働省の規程により一定人数以下での授業を行わなければならないことにより、結果的にこうした結果が導き出されていると思われる。実際には、「～論」の科目でも学生の興味関心を引き出すために演習を取り入れるといった工夫をしているため、科目名に関わらず授業に応じて教室の調整を行う必要があると考える。
	15.6 (12)	23.4 (18)	14.3 (11)	28.6 (22)	13.0 (10)	3.9 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	9.1 (7)	19.5 (15)	28.6 (22)	18.2 (14)	10.4 (8)	6.5 (5)	6.5 (5)	
	5.2 (4)	7.8 (6)	16.9 (13)	24.7 (19)	22.1 (17)	16.9 (13)	3.9 (3)	1.3 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

まず学習環境について、学生の国家試験の資格取得希望人数は毎年変動するため、それによってクラスあたりの履修者数と個別指導状況を含む学修環境が影響を受ける。ゆえに、各学年の国家資格取得状況を踏まえて学習環境を調整していきたい。また、その科目が国家試験受験科目かどうか、そして実習前かどうかによっても学生の意欲や主体性が影響を受けるのも事実であるため、こうした「学生にとってその科目がどういう意味をもつか」ということを、教育のなかでうまく生かす形を意識して、学習意欲や自宅学習を増やすよう働きかけたい。映像視聴や体を動かした学ぶ授業は評価が高くなる傾向にはあるが、単純に「楽しかった」ということで満足度が高いこともあるため、専門職として必要な知識として身につけているか、ということもみながら授業内容を組み立てていくよう、各教員が授業内容を検討していく必要があると考えている。

4.今後の方針

同じ科目を複数の教員が履修している同士で評価内容や学生の状況については今までも定期的に共有している。国家資格関連科目、実習関連科目については教員同士でのコミュニケーションはよくとれているが、講義科目や「～論」科目、国家資格以外の科目の教員との意見交換は十分とはいえないため、お互いの工夫を共有することで学生の学修意欲を引き出す工夫を行いたい。

また、学生の自由記述では基本的な枠(時間、テキスト活用、声の大きさ、話す学生への注意等)を教員が整えてほしいといった内容の指摘や要望があった。こうした点は、教員にも定期的に確認をお願いすることで、基本的な90分の枠組みをきちんと構築したなかで授業を行っていく体制としていきたい。最後に、国家資格取得関連科目だとそのテキストに集中する傾向がある。指定テキスト以外にも図書館の書籍を含めて教材を活用することは、学科全体で取り組んでいきたいと考えている。

1.概評

ソーシャル・スタディーズ、メディア・スタディーズ、グローバル・スタディーズの3つのスタディーズを設けたカリキュラムがスタートして4年目となり、各スタディーズでの学びの体系が学生に周知されてきた。授業公開をスタディーズごとに前期と後期に行い、教員間で授業後にディスカッションをし、お互いの授業の関係性や方向性を確認し合っている。引き続き、授業の質を上げる努力を行っていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.8 (1)	3.3 (4)	7.4 (9)	18.0 (22)	24.6 (30)	23.8 (29)	16.4 (20)	4.9 (6)	0.8 (1)	[学生] シラバスによる事前確認（no.1）、授業への積極的取り組み（no.2）、授業外での学習（no.3）については、半数程度の学生が肯定的（A）評価をしている科目数が多い結果となっている。 英語に関しては、授業外での学習をさらに進めるため、elearningの学習の徹底に向けて非常勤教員を含め話し合いを重ねている。その他の科目についても、課題やレポートなどで工夫をするよう、学科で検討していきたい。 到達目標の達成（no.4）は、3割以上7割未満の学生が肯定的評価（A）をしている科目数が多い。学生の達成感が高まるよう到達目標の周知を図る。
	2.5 (3)	10.7 (13)	24.6 (30)	29.5 (36)	21.3 (26)	8.2 (10)	1.6 (2)	0.8 (1)	0.8 (1)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.8 (1)	4.9 (6)	12.3 (15)	13.1 (16)	19.7 (24)	18.0 (22)	19.7 (24)	7.4 (9)	4.1 (5)	
	4.1 (5)	8.2 (10)	22.1 (27)	23.0 (28)	17.2 (21)	19.7 (24)	3.3 (4)	1.6 (2)	0.8 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (6)	8.2 (10)	12.3 (15)	21.3 (26)	13.9 (17)	16.4 (20)	13.1 (16)	9.8 (12)	
	10.7 (13)	13.1 (16)	22.1 (27)	18.0 (22)	20.5 (25)	13.1 (16)	2.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	4.1 (5)	14.8 (18)	27.9 (34)	21.3 (26)	11.5 (14)	10.7 (13)	6.6 (8)	2.5 (3)	0.8 (1)	
	0.8 (1)	3.3 (4)	7.4 (9)	10.7 (13)	16.4 (20)	33.6 (41)	20.5 (25)	4.9 (6)	2.5 (3)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.8 (1)	0.8 (1)	1.6 (2)	13.1 (16)	14.8 (18)	21.3 (26)	23.8 (29)	18.0 (22)	5.7 (7)	[授業[内容]] 「授業はシラバスに記載された内容で行われたか」（no.5）は、6割以上8割未満の学生が肯定的評価（A）をした科目数の割合が高いことから、シラバスが充実し、内容に沿った授業が展開されていることが伺える結果である。「授業内容の理解」（no.6）については、no.2の積極的に授業に取り組んだかどうかということと相関関係にあるとも考えられる。授業外での学習時間を増やすことは、授業内容の理解を高めることに繋がるはずである。学生には、授業外での積極的な学習を促していきたい。
	7.4 (9)	14.8 (18)	27.9 (34)	25.4 (31)	13.1 (16)	9.0 (11)	0.0 (0)	2.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	2.5 (3)	4.1 (5)	13.1 (16)	14.8 (18)	18.0 (22)	16.4 (20)	15.6 (19)	9.0 (11)	6.6 (8)	
	8.2 (10)	8.2 (10)	15.6 (19)	29.5 (36)	18.9 (23)	13.9 (17)	4.1 (5)	1.6 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	2.5 (3)	3.3 (4)	6.6 (8)	10.7 (13)	13.9 (17)	18.0 (22)	17.2 (21)	15.6 (19)	12.3 (15)	[授業[教え方等]] 教えた等については評価に多少ばらつきが見られる。授業のタイプによっては、PowerPointや映像等の教材の使用の有無や、配付資料の量の差があると思われ、その差が評価に違いを生んでいるとも考えられる。教員の説明の明快さについては、テーマや学生の興味・関心によっては、学生が「明快」と受け止めることができない場合も考えられる。教員が平明な解説をする努力は必要であるが、難しい側面もある。
	12.3 (15)	18.0 (22)	23.0 (28)	27.9 (34)	9.8 (12)	8.2 (10)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.8 (1)	2.5 (3)	4.1 (5)	4.9 (6)	13.1 (16)	14.8 (18)	28.7 (35)	16.4 (20)	14.8 (18)	
	13.9 (17)	22.1 (27)	25.4 (31)	26.2 (32)	8.2 (10)	4.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.8 (1)	5.7 (7)	6.6 (8)	7.4 (9)	22.1 (27)	11.5 (14)	17.2 (21)	17.2 (21)	11.5 (14)	
	12.3 (15)	18.0 (22)	23.0 (28)	24.6 (30)	11.5 (14)	8.2 (10)	1.6 (2)	0.0 (0)	0.8 (1)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	1.6 (2)	6.6 (8)	13.9 (17)	15.6 (19)	21.3 (26)	21.3 (26)	18.9 (23)	[環境・設備等] 学習環境については、評価に多少ばらつきが見られる。授業内容に即した適切な教室を使用できているとは限らないためであると考ええる。また、参考書の充実度に対する評価は以前に比べ上がっている科目がみられた。これは、図書館と連携して参考書の充実に努めた結果である。さらなる充実を図っていきたい。
	18.9 (23)	25.4 (31)	27.0 (33)	17.2 (21)	10.7 (13)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	3.3 (4)	9.0 (11)	18.9 (23)	24.6 (30)	17.2 (21)	15.6 (19)	8.2 (10)	3.3 (4)	
	5.7 (7)	10.7 (13)	18.9 (23)	28.7 (35)	17.2 (21)	11.5 (14)	4.9 (6)	2.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

現代教養学科では、アクティブ・ラーニングやPBL (Project Based Learning) の授業を強化するための授業方法を教員間で検討しているが、それに対応した教室が不足している。この点が学生の学習環境の評価のばらつきに表れていると考える。また、学生自身が授業にどれだけ興味を持って積極的に取り組めるか、ということが一つの授業の評価にも繋がっていくと思われる。受け身ではなく、自主的な授業参加を促すような授業運営について、学科でも話し合っていきたい。

4.今後の方針

現代教養学科では、授業の改善・充実のための一つの方法として、スタディーズごと及び非常勤教員の担当科目についても可能な限り授業公開を行い、授業後にディスカッションをすることで、教員間での授業の関係性や方向性の確認に努めている。今後もできるだけ授業公開に参加し合うことで連携を図り、情報交換に努め、よりよい授業の方法を模索して行きたい。また、図書館の協力を仰ぎ、これまで少なかった社会学系の図書の充実をお願いしている。今後も引き続き進めて行きたい。

1.概評

すべての質問項目について、肯定的評価の割合が9割以上と非常に高く、ほぼ天井うちになっている状況である。教員側による授業外課題に対する認識も徐々に定着してきており、学生もそれに対してしっかりと取り組んでいる結果が見受けられる。各教員に対する評価も否定的評価はほとんどなく、ほぼ高評価を得ているが、これに甘んじることなく、今後も細部にわたる改善を試み、さらなる授業改善および学生の意識や活動の促進を心がけたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察
1	0.0 (0)	2.2 (2)	1.1 (1)	6.7 (6)	18.0 (16)	33.7 (30)	24.7 (22)	7.9 (7)	4.5 (4)	1.1 (1)	[学生] すべての項目において肯定的評価（とくにA)の割合が高い結果となっている。とくに授業に積極的に取り組んだと評価した割合は98%と非常に高くなっている。また授業外での学習に対する取り組みについても数年前と比較すると高くなってきており、これまでの授業改善の取り組みにより教員側と学生側の意識が変化してきた結果だと評価できる。今後も到達目標を学生に明確に意識させ、学習への動機づけを高めるような授業展開を心がけたい。
	0.0 (0)	6.7 (6)	9.0 (8)	42.7 (38)	34.8 (31)	3.4 (3)	0.0 (0)	2.2 (2)	1.1 (1)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.6 (5)	5.6 (5)	23.6 (21)	30.3 (27)	16.9 (15)	10.1 (9)	7.9 (7)	
	4.5 (4)	13.5 (12)	19.1 (17)	31.5 (28)	20.2 (18)	10.1 (9)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (3)	1.1 (1)	6.7 (6)	19.1 (17)	24.7 (22)	30.3 (27)	6.7 (6)	7.9 (7)	
	5.6 (5)	7.9 (7)	36.0 (32)	27.0 (24)	16.9 (15)	5.6 (5)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	2.2 (2)	4.5 (4)	16.9 (15)	18.0 (16)	20.2 (18)	24.7 (22)	7.9 (7)	2.2 (2)	3.4 (3)	
	2.2 (2)	3.4 (3)	11.2 (10)	25.8 (23)	21.3 (19)	18.0 (16)	15.7 (14)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	2.2 (2)	10.1 (9)	14.6 (13)	33.7 (30)	22.5 (20)	10.1 (9)	4.5 (4)	[授業[内容]] 授業内容とシラバスとの整合性は、98%弱が肯定的評価を示しており、昨年度より向上している。また授業内容が理解できたかについての項目も昨年度よりも肯定的評価が増加しており、授業改善の成果が現れているといえる。
	4.5 (4)	10.1 (9)	25.8 (23)	33.7 (30)	13.5 (12)	10.1 (9)	1.1 (1)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.7 (6)	13.5 (12)	16.9 (15)	31.5 (28)	15.7 (14)	9.0 (8)	6.7 (6)	
	5.6 (5)	13.5 (12)	18.0 (16)	28.1 (25)	25.8 (23)	5.6 (5)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	5.6 (5)	1.1 (1)	7.9 (7)	13.5 (12)	24.7 (22)	20.2 (18)	16.9 (15)	10.1 (9)	[授業[教え方等]] 教員の説明、話の仕方、授業の進め方については、前期よりも全体的に肯定的評価の割合が増加しており、教員の授業改善の成果だと思われる。ただ同内容の授業でもクラスによる評価の違いが生じている科目もあり、教員側のみの力量の問題ではなく、学生の学習に対するモチベーションであったりクラスの雰囲気などによる要因も大きいと思われる。
	10.1 (9)	18.0 (16)	27.0 (24)	21.3 (19)	14.6 (13)	5.6 (5)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	4.5 (4)	6.7 (6)	15.7 (14)	23.6 (21)	24.7 (22)	12.4 (11)	11.2 (10)	
	10.1 (9)	18.0 (16)	24.7 (22)	24.7 (22)	16.9 (15)	3.4 (3)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (3)	4.5 (4)	7.9 (7)	13.5 (12)	29.2 (26)	22.5 (20)	9.0 (8)	10.1 (9)	
	9.0 (8)	12.4 (11)	27.0 (24)	27.0 (24)	18.0 (16)	4.5 (4)	1.1 (1)	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	2.2 (2)	15.7 (14)	30.3 (27)	23.6 (21)	13.5 (12)	12.4 (11)	[環境・設備等] 学習環境については、教科によってばらつきがみられる。自由記述では、狭い教室で身動きがとれないといった内容のものや、授業中にロッカーのものを取りにくる学生がいるといった不満があった。今後受講人数に対して教室が狭すぎる状況は増加することが予想される。学生にとって学習環境は非常に重要な要因なので、改善策を検討する必要がある。
	10.1 (9)	14.6 (13)	40.4 (36)	23.6 (21)	10.1 (9)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	6.7 (6)	13.5 (12)	23.6 (21)	33.7 (30)	11.2 (10)	6.7 (6)	2.2 (2)	
	1.1 (1)	12.4 (11)	18.0 (16)	40.4 (36)	20.2 (18)	3.4 (3)	3.4 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教員養成学科という特性もあり、教員の授業改善に対する意識や意欲は高く、全体的に常に肯定的評価の割合が高くなっている。ほぼ天井うち状態とはいえ、前回よりもほとんどの項目で肯定的評価の割合が上昇しているのも、各教員の授業改善に対する意識の高さや努力の成果であろう。

4.今後の方針

これまでの授業改善の成果として、とくに学生の主体的、積極的姿勢が上昇してきていることは評価できる。今後も、より充実した授業を展開していけるよう、学科全体として取り組んでいきたい。とくに前期にはICTを効果的に活用しながらアクティブラーニングを実現している教員の授業公開をおこない、学科内のほぼ全教員がライブあるいはビデオ視聴によって参観した。さらに後日、協議会をひらくことで、学科全体での授業改善に対する意識向上および授業の質的改善を図る機会を得た。今後もこのような取り組みを継続することで、教員の意識向上につとめたい。

1.概評

昨年度より導入されたフォーマットの為、過去1年分のデータとの比較のみしか行えないものの、おおむねその傾向は旧来通りであると考えられる。なおいくつかの設問（特に授業内容）に対しては、若干の評価の上昇が確認され、こうした小さな改善を継続的に積み上げることにより、比較的评价の低い授業運営や達成度、習熟状況に関しても、同様に評価の上昇が見込まれるよう努力を継続していきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.7 (1)	0.7 (1)	6.5 (9)	19.4 (27)	27.3 (38)	20.1 (28)	18.0 (25)	7.2 (10)	0.0 (0)	[学生] A+Bの評価率(%)は、H28前期／H27前期において設問 1 (95.3/93.8)、設問2(96.3/95.2)、設問3(96.7/94.4)、設問4(94.2/92.0)と各設問ともに微増となった。 これより学期初めのガイダンスや、授業内・外での学習指導が、学生への授業の目的、内容の周知に対して比較的うまく機能していると考えられる。よってこの状況を継続していきたい。
	2.9 (4)	5.8 (8)	18.0 (25)	30.9 (43)	21.6 (30)	19.4 (27)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.7 (1)	4.3 (6)	11.5 (16)	12.2 (17)	26.6 (37)	18.7 (26)	15.1 (21)	8.6 (12)	2.2 (3)	
	2.2 (3)	8.6 (12)	20.1 (28)	18.7 (26)	23.0 (32)	22.3 (31)	3.6 (5)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.7 (1)	1.4 (2)	2.9 (4)	13.7 (19)	23.7 (33)	30.2 (42)	11.5 (16)	13.7 (19)	2.2 (3)	
	2.9 (4)	10.8 (15)	23.0 (32)	23.0 (32)	27.3 (38)	10.8 (15)	1.4 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.7 (1)	3.6 (5)	15.8 (22)	18.0 (25)	16.5 (23)	23.7 (33)	9.4 (13)	7.2 (10)	5.0 (7)	0.0 (0)	
	0.7 (1)	4.3 (6)	8.6 (12)	12.9 (18)	25.2 (35)	20.1 (28)	23.0 (32)	5.0 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	2.2 (3)	2.2 (3)	3.6 (5)	15.1 (21)	23.0 (32)	23.7 (33)	17.3 (24)	10.1 (14)	2.9 (4)	[授業[内容]] A+Bの評価率(%)は、H28前期／H27前期において設問 5(96.0/96.9)、設問6(92.5/92.9)といずれも概ね同率の結果となった。 このうち設問6に関しては、授業内容の理解に関する事項の為、各教員のなお一層の授業内容の明確化、伝達方法への工夫が必要と考える。
	2.9 (4)	9.4 (13)	23.0 (32)	25.2 (35)	25.2 (35)	12.2 (17)	0.7 (1)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.4 (2)	2.2 (3)	10.8 (15)	13.7 (19)	17.3 (24)	17.3 (24)	18.0 (25)	6.5 (9)	12.2 (17)	0.7 (1)	
	1.4 (2)	10.8 (15)	12.2 (17)	18.7 (26)	25.2 (35)	25.2 (35)	6.5 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.7 (1)	2.2 (3)	3.6 (5)	13.7 (19)	13.7 (19)	17.3 (24)	19.4 (27)	15.1 (21)	10.8 (15)	3.6 (5)	[授業[教え方等]] A+Bの評価率(%)は、H28前期／H27前期において設問 7(92.4/93.1)、設問8(93.0/94.5)、設問9(92.0/93.0)と各設問ともに微減となった。 教え方に関しては、学科としては授業公開等を行い継続的な改善を図っているもののなかなかその効果が表れない結果となっており、なお一層の努力を行ってきたい。
	4.3 (6)	11.5 (16)	24.5 (34)	23.7 (33)	18.7 (26)	12.2 (17)	4.3 (6)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	3.6 (5)	2.9 (4)	10.1 (14)	15.1 (21)	14.4 (20)	22.3 (31)	13.7 (19)	12.2 (17)	5.8 (8)	
	6.5 (9)	13.7 (19)	19.4 (27)	22.3 (31)	23.0 (32)	12.2 (17)	2.2 (3)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.7 (1)	3.6 (5)	5.0 (7)	12.2 (17)	14.4 (20)	18.7 (26)	20.1 (28)	10.8 (15)	12.2 (17)	2.2 (3)	
	2.9 (4)	10.8 (15)	21.6 (30)	23.7 (33)	22.3 (31)	15.1 (21)	2.9 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.7 (1)	5.8 (8)	15.1 (21)	19.4 (27)	21.6 (30)	20.9 (29)	12.9 (18)	3.6 (5)	[環境・設備等] A+Bの評価率(%)は、H28前期／H27前期において設問10(95.2/93.9)と微増、設問11(86.7/86.9)と概ね同率の結果となった。 これより特に設問10の学習環境（特に部屋の広さや空調）に関しては、継続的な学習環境改善の試みが数値として表れた形となっており、今後もその時々に応じた学習環境の形成に工夫したい。
	5.0 (7)	14.4 (20)	23.7 (33)	27.3 (38)	20.9 (29)	6.5 (9)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.4 (2)	10.8 (15)	23.7 (33)	22.3 (31)	15.8 (22)	12.2 (17)	7.9 (11)	5.0 (7)	0.7 (1)	
	2.2 (3)	7.9 (11)	15.1 (21)	25.2 (35)	25.9 (36)	18.0 (25)	5.0 (7)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科では、入試において理数系科目を選択せずにも入学できるシステムをとっており、このため入学生の中には高校において理数系科目をほとんど履修せずに入学してきた学生も少なくない。しかし一方で学科カリキュラムにおいては最低限の理数系科目の知識を必要とするものが少なからず存在しており、これら関連科目に関する評価が、他の演習科目などに比べ傾向として低評価となっている。この傾向自体は例年通りであるものの、一部の科目において特に評価が低い科目が散見されたため、これらに関しては何らかの対策を行っていきたい。特に新規非常勤科目や新たに科目を担当した教員による授業において、授業運営の不慣れにより評価が下がったと考えられるものがあり、これらに関しては改善を促すとともに、しばらくの間、経過を観察する必要があるものとする。

4.今後の方針

昨年度に引き続き、学科カリキュラムの中心である演習科目と、それらを補足し、より発展させるために必要な講義科目の学習バランスに関して、偏りが生じないようにクラスアドバイザー等による履修指導を徹底したい。また授業時間外での自宅学習の有用性について説明し、講義科目の習熟度を向上させる取り組みを徹底したい。

1.概評

管理栄養士免許取得という目的意識を持った学生なので、勉強に対する意欲は高い学生が多いと思われる。しかし、自分から進んで積極的に取り組む点では、もう少し自分から「質問する」「挨拶する」など積極的な行動できるような機会を作り、取り組むことができるように授業の中でも検討していく。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	1.5 (1)	5.9 (4)	25.0 (17)	26.5 (18)	20.6 (14)	14.7 (10)	2.9 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	1.5 (1)	[学生] シラバスで授業内容を確認している学生は、少ない傾向にある。資格取得のための選択必修科目が多いので、あまり確認しないと考えられる。レポートに取り組む姿勢及び「到達目標」については、肯定的は評価が高く、積極的に取り組んでいると考える。実験実習科目は、授業時における実験実習を通して得られた結果をまとめるには、授業外でも自主的に集まって学生間で検討する必要がある、結果的にコミュニケーションを図る機会になっていると考える。
	1.5 (1)	0.0 (0)	4.4 (3)	7.4 (5)	32.4 (22)	41.2 (28)	10.3 (7)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	4.4 (3)	17.6 (12)	13.2 (9)	25.0 (17)	10.3 (7)	16.2 (11)	2.9 (2)	7.4 (5)	2.9 (2)	
	2.9 (2)	7.4 (5)	2.9 (2)	16.2 (11)	11.8 (8)	36.8 (25)	17.6 (12)	4.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	5.9 (4)	10.3 (7)	16.2 (11)	7.4 (5)	14.7 (10)	10.3 (7)	17.6 (12)	11.8 (8)	4.4 (3)	1.5 (1)	
	1.5 (1)	8.8 (6)	11.8 (8)	16.2 (11)	17.6 (12)	27.9 (19)	11.8 (8)	4.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	10.3 (7)	16.2 (11)	23.5 (16)	17.6 (12)	17.6 (12)	5.9 (4)	4.4 (3)	2.9 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	1.5 (1)	7.4 (5)	2.9 (2)	16.2 (11)	20.6 (14)	32.4 (22)	17.6 (12)	1.5 (1)	0.0 (0)	
5	1.5 (1)	8.8 (6)	13.2 (9)	11.8 (8)	26.5 (18)	17.6 (12)	11.8 (8)	2.9 (2)	4.4 (3)	1.5 (1)	[授業[内容]] おおむね理解度は高いと思われる数値である。理解度が低い学生も少し見られるが、低学年に基礎科目があり、専門科目へと発展していくので、基礎科目の理解が不十分であると専門科目を学ぶ時に、もう一度基礎の部分を学び直すことが必要になるので、できるだけ基礎知識が習得できるように、復習の習慣もつけるように指導していく。
	1.5 (1)	7.4 (5)	2.9 (2)	10.3 (7)	20.6 (14)	27.9 (19)	20.6 (14)	5.9 (4)	2.9 (2)	0.0 (0)	
6	4.4 (3)	5.9 (4)	14.7 (10)	17.6 (12)	27.9 (19)	10.3 (7)	11.8 (8)	4.4 (3)	1.5 (1)	1.5 (1)	
	1.5 (1)	2.9 (2)	8.8 (6)	10.3 (7)	16.2 (11)	39.7 (27)	17.6 (12)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	4.4 (3)	2.9 (2)	5.9 (4)	13.2 (9)	26.5 (18)	22.1 (15)	14.7 (10)	5.9 (4)	2.9 (2)	1.5 (1)	[授業[教え方等]] 教員の説明に対する評価は、「明快である」「よく聞き取れる」が高い数値である。授業の「進め方」については、授業内容によって異なるが、教員と学生間の双方向の理解度の確認が必要と考えられる。国家試験の模擬問題などを各科目の理解度確認に用いている教科もあり、国家試験の受験に向けて必要な科目であることの自覚を、低学年から深める工夫を行っていくことも検討して行く。
	2.9 (2)	1.5 (1)	10.3 (7)	23.5 (16)	29.4 (20)	29.4 (20)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	2.9 (2)	4.4 (3)	1.5 (1)	11.8 (8)	20.6 (14)	22.1 (15)	17.6 (12)	8.8 (6)	8.8 (6)	1.5 (1)	
	2.9 (2)	7.4 (5)	8.8 (6)	27.9 (19)	23.5 (16)	25.0 (17)	4.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	4.4 (3)	7.4 (5)	5.9 (4)	16.2 (11)	20.6 (14)	20.6 (14)	13.2 (9)	7.4 (5)	4.4 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.4 (3)	10.3 (7)	22.1 (15)	26.5 (18)	29.4 (20)	4.4 (3)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (2)	10.3 (7)	23.5 (16)	33.8 (23)	20.6 (14)	4.4 (3)	2.9 (2)	1.5 (1)	[環境・設備等] 「教室が狭い」という意見は、学生から多く聞こえる。また前期は、近隣の建設工事に伴う騒音もあり、講義はかなり聞き取りにくかったと思われる。 実験実習室は、建物自体の老朽化に伴う壁の亀裂や、塗装はがれが目立ち、食品を扱う上で衛生面の配慮に欠ける点がある。
	2.9 (2)	1.5 (1)	10.3 (7)	25.0 (17)	33.8 (23)	25.0 (17)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	8.8 (6)	11.8 (8)	29.4 (20)	30.9 (21)	10.3 (7)	5.9 (4)	1.5 (1)	1.5 (1)	0.0 (0)	
	1.5 (1)	0.0 (0)	2.9 (2)	8.8 (6)	20.6 (14)	45.6 (31)	13.2 (9)	7.4 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学生の授業への取り組む姿勢、レポート作成などの態度は、良好である。実際の入学後に実施している「化学」「生物」実力テストの結果では、「化学」の成績があまりよくないので、基礎科目においては、「化学」の基礎学力の向上が必要と考える。また2年次に開設した「科学英語(食品と栄養学を学ぶために)」では、グループワークの結果を英語で発表する機会もあり、コミュニケーション力を養う機会をふやすようにしている。また、国家試験対策として開始したe-ラーニングは、3、4年生を対象としているので、大いに利用するように呼びかけて行きたい。

4.今後の方針

本年平成28年度より新カリキュラムを開始し、資格取得に関わる知識の充実をはかることを目的として、低学年に基礎知識の修得を開始し、段階的に専門科目へ発展できるように編成している。1年次の状況を把握検討しながら、旧カリキュラムとも比較して、今後のカリキュラム編成の計画に取り組んでいきたいと思う。

1.概評

現在、4年生は学科開設当時からのカリキュラム、1～3年生は専門の基礎科目がすべて必修化された新カリキュラムの授業になっている。よってここ数年のFDアンケートの結果は、その試みの成果を評価する重要な資料となるものと考えられる。前年度と比較すると、全体のA+B評価率・平均点ともにわずかに向上しており、学科としての取り組みの成果が確認できる。項目別にみると、「学生」項目の問1～問4および「環境・設備」の問10～問11ではA+B評価率が全体平均より高いが「授業」項目の問5～問9が低いという結果になっている。これは例年通りの傾向で、基礎的な講義科目の中に、内容的に理系の知識が必要で難解な部分がある科目があるためと考えられる。この現状に甘んじることなく、学生の学習意欲向上を目指した取り組みをしていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	3.0 (2)	16.4 (11)	20.9 (14)	20.9 (14)	20.9 (14)	14.9 (10)	1.5 (1)	1.5 (1)	0.0 (0)	【学生】 多くの授業が資格取得のための必修であり選択の余地が少ないためという理由で例年この項目が低かったのだが、シラバス確認についての評価が昨年と比較して高くなり、学科としての取り組みの成果が伺える。学生の授業への取り組みは積極的で、授業外での学習も十分に行っていると考えられる。「到達目標」を達成できたかという新規の質問項目はA+B評価では学内平均より高く、資格取得という明確な目標のある学習に一定の達成感があるものと考えられる。一方で同じ項目を平均点で見ると学内平均よりも低いため、一部に理解度が不十分で極端に低い点数をつけた学生がいるのかもしれない。今後の検討事項と言える。
	0.0 (0)	1.5 (1)	6.0 (4)	13.4 (9)	28.4 (19)	31.3 (21)	14.9 (10)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	3.0 (2)	4.5 (3)	19.4 (13)	19.4 (13)	17.9 (12)	22.4 (15)	9.0 (6)	0.0 (0)	4.5 (3)	
	4.5 (3)	0.0 (0)	10.4 (7)	17.9 (12)	22.4 (15)	25.4 (17)	14.9 (10)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	3.0 (2)	1.5 (1)	16.4 (11)	20.9 (14)	19.4 (13)	20.9 (14)	10.4 (7)	4.5 (3)	3.0 (2)	
	3.0 (2)	4.5 (3)	20.9 (14)	11.9 (8)	28.4 (19)	20.9 (14)	9.0 (6)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	9.0 (6)	3.0 (2)	23.9 (16)	20.9 (14)	11.9 (8)	17.9 (12)	6.0 (4)	4.5 (3)	3.0 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.0 (2)	4.5 (3)	9.0 (6)	17.9 (12)	16.4 (11)	26.9 (18)	17.9 (12)	4.5 (3)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	3.0 (2)	4.5 (3)	20.9 (14)	19.4 (13)	17.9 (12)	14.9 (10)	7.5 (5)	9.0 (6)	3.0 (2)	【授業[内容]】 今年度は授業[内容]の項目は学内平均よりわずかに低かった。ただし、昨年度と比較して学内平均がわずかに上昇し、健康デザイン学科はほとんど変化がなかった、のが実情である。授業内容の理解については、基礎的な講義科目の中にやや評価の低いものがあるが、内容的に理系の知識が必要で、どうしても難解な部分があるためと考えられる。一方、応用的な実習・演習科目は実生活に近い内容のものが多く、その段階になって理解が進むものと考えられる。それを差し引いて考えれば、学内平均と大差ないことは決して悪い評価ではないと考えられる。
	3.0 (2)	6.0 (4)	13.4 (9)	17.9 (12)	17.9 (12)	22.4 (15)	17.9 (12)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	3.0 (2)	4.5 (3)	17.9 (12)	14.9 (10)	19.4 (13)	10.4 (7)	13.4 (9)	11.9 (8)	1.5 (1)	3.0 (2)	
	1.5 (1)	6.0 (4)	11.9 (8)	14.9 (10)	14.9 (10)	29.9 (20)	13.4 (9)	7.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.5 (1)	6.0 (4)	10.4 (7)	13.4 (9)	7.5 (5)	20.9 (14)	13.4 (9)	16.4 (11)	6.0 (4)	4.5 (3)	【授業[教え方等]】 今年度は授業[教え方等]の項目もすべて学内平均より低かった。ただしこれも学内平均が上昇したためで、健康デザイン学科が悪化したわけではない。実際のところ科目により評価が分かれ、基礎的な講義科目にやや評価の低いものがあり、一方で応用的な実習・演習科目の評価が高くなる傾向があった。これも授業内容に記述したものと共通の理由によるものと考えられる。引き続き学科として、とくに基礎的な講義科目への意欲的な取り組みを促す工夫が必要かもしれない。
	4.5 (3)	7.5 (5)	22.4 (15)	19.4 (13)	17.9 (12)	13.4 (9)	10.4 (7)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	3.0 (2)	13.4 (9)	9.0 (6)	9.0 (6)	23.9 (16)	11.9 (8)	19.4 (13)	4.5 (3)	6.0 (4)	
	6.0 (4)	7.5 (5)	22.4 (15)	14.9 (10)	32.8 (22)	10.4 (7)	4.5 (3)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	7.5 (5)	14.9 (10)	9.0 (6)	13.4 (9)	16.4 (11)	19.4 (13)	10.4 (7)	3.0 (2)	6.0 (4)	
	4.5 (3)	7.5 (5)	11.9 (8)	22.4 (15)	26.9 (18)	16.4 (11)	6.0 (4)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (2)	9.0 (6)	14.9 (10)	25.4 (17)	16.4 (11)	20.9 (14)	4.5 (3)	6.0 (4)	【環境・設備等】 学習環境の評価は昨年と同様、高かった。資格関連科目については1クラス40名程度での授業実施が多く、大教室・大人数での授業が少ないことがその理由かもしれない。
	3.0 (2)	10.4 (7)	25.4 (17)	19.4 (13)	26.9 (18)	7.5 (5)	4.5 (3)	3.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.5 (1)	1.5 (1)	16.4 (11)	16.4 (11)	19.4 (13)	14.9 (10)	16.4 (11)	9.0 (6)	4.5 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.5 (3)	13.4 (9)	20.9 (14)	11.9 (8)	31.3 (21)	13.4 (9)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

昨年度と同様、学科平均で見ると、すべての項目についてAと解答した学生の割合は学内平均よりも低い。A+B評価にすると「学生」「環境・設備等」の項目では学内平均を上回る。ただし「授業」の項目は学内平均を下回っていた。学科の授業の特性として、理系の知識を必要とし、それをベースにした実験・実習を行うため、授業の内容には当然難解な部分もありAをつけるのは難しいが、資格取得のため努力して取り組んだ結果Bという評価をする、ということなのかもしれない。しかしながらそれを理由に、現状のままでよいというわけではもちろんないので、学科の授業内容の特性を踏まえた上での、さらなる改善の取り組みが必要であろう。

4.今後の方針

学科の開設している科目の特性を踏まえた上で、授業への能動的・積極的な参加と学習意欲のさらなる向上を図ることが必要になるであろう。昨年度までと同様になるが、引き続き、①専門の基礎科目を必修化した新カリキュラムを履修している1～3年生の今後の状況の確認、②それに基づく基礎科目の指導体制のさらなる充実、③実習・演習の多い応用的な専門科目の内容の工夫とそれらに必要な機器設備の充実、④それらを円滑に行うための学科内での情報交換、などに取り組んでいきたい。また学科として、とくに理系科目の基礎学力が不足している学生が、授業に積極的に参加し学習意欲を向上させる継続的な取り組みが必要であろう。